

科目名	ファシリテーション実践論2/ワークショップ実践論2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	山田 裕史、佐々木 寛		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-01-A-1-220025	国際学部C：新潟の地域社会にあつて学術的素養を日々に活かす方法をたえず摸索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること			
授業の目的	<p>共通科目「ファシリテーション概論」や「国際交流ファシリテーター1・2」が、ワークショップやファシリテーションといった新たな方法との「出会い」であるとすれば、本授業はその「応用」と「発展」を目指します。すなわち、「ファシリテーション概論」や「国際交流ファシリテーター1・2」があくまでも教員からきっかけを与えられて取り組む授業なのに対して、本授業は学生自らが問題意識に沿って、それぞれのファシリテーションの内容を深めることを目標とします。</p> <p>問題の所在を自分たちで見つけ、その問題を解決するための方法も自主的に探究するという、新しい形式の授業です。学外講師の招聘に関しても、できるだけ履修者の要望を反映させます。大学近郊の地域へ出向き、ファシリテーションを実践します。</p> <p>さらに本授業では、履修者が多種多様なファシリテーションの技法とワークショップを経験することにより、ファシリテーションとワークショップの広範囲な技術を獲得することを目指します。</p>				
学修到達目標	新たな知識の獲得や問題発見の技術だけでなく、コミュニケーション能力及び実践的な学力が身につきます。				
実務経験との関連性	講師として招聘する著名なファシリテーターによるワークショップを経験します（全4回）。				

授業計画	
第1回	イントロダクション：ワークショップとは？（授業の進め方と講義）、アイスブレイク、自己紹介
第2回	教員によるワークショップ（非暴力トレーニング）
第3回	国際交流ファシリテーターによるワークショップ

第4回	招聘講師によるワークショップ①
第5回	グループワーク（前回のワークショップの振り返り）
第6回	招聘講師によるワークショップ②
第7回	グループワーク（前回のワークショップの振り返り）
第8回	招聘講師によるワークショップ③
第9回	グループワーク（前回のワークショップの振り返り）
第10回	招聘講師によるワークショップ④
第11回	グループワーク（前回のワークショップの振り返り）
第12回	ワークショップづくり①
第13回	ワークショップづくり②

第14回	ワークショップ発表①
第15回	ワークショップ発表②
第16回	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配付資料の予習。
【復習】時間・内容	2時間。資料の不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	出席回数と授業参加態度（30%）、および、授業における各グループのパフォーマンスとグループ内での各個人のパフォーマンス（70%）を合わせて総合的に評価します。
フィードバック方法	ワークショップに対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	青木将幸『リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50』ほんの森出版、2013年 石川一喜・小貫仁編『教育ファシリテーターになろう！：グローバルな学びをめざす参加型授業』弘文堂、2016年 鈴木康久ほか編『はじめてのファシリテーション』昭和堂、2019年 ちよんせいこ『人やまちが元気になるファシリテーター入門講座』解放出版社、2007年 中野民夫『ワークショップ：新しい学びと創造の場』岩波新書、2001年 堀公俊『ファシリテーション入門〈第2版〉』日本経済新聞出版社、2018年 ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店、2004年 その他の書籍は授業中に紹介します。
受講上の留意点等	前期開講科目「ファシリテーション概論」の単位を取得済みであることが望ましいです。 国際交流ファシリテーターを目指す学生は必ず履修してください（必修科目）。 自分でテーマを見つけ、リサーチをして、講師の話聞いて、それを自分たちのワークショップにいかします。積極的な学生の履修を期待します。
JABEE	